

講義名	健康サービス企画運営論			授業形態	
担当教員	山口 志郎 / 与那覇 秀勲	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

高齢化社会が進む現代の日本において、健康をキーワードとしたサービス産業はますます発展を遂げている。そうした中、健康サービス分野において、商品やサービス、イベントを企画運営することが求められる。そうした専門的な人材を育成していくことが急務な課題となっている。そこで、本講義では、ゲスト講師の課題設定を基に事例研究を行うことを目的とする。

到達目標

本講義では、以下の到達目標の達成に向け進行する。
 健康サービスに関する専門的な知識を習得できるようになる。
 健康サービスに関する実践的な問題意識を明確にすることができるようになる。
 健康サービスに関する企画・立案力を習得できるようになる。
 健康サービスに関する運営ノウハウを習得できるようになる。

提出課題

授業終了後に、その日の感想・質問・ポイント等を小レポートとして提出してもらおう。また、授業内で事例研究を行い、レポートとして提出してもらおう。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

毎回の小レポート課題は、レポート評価をした後、学生にフィードバックし、レポートの書き方やクリティカルシンキングのための考え方を個別または授業全体で解説する。

評価の基準

企画書作成 50%
 平常点（小レポート、授業態度、質問等） 50%

履修にあたっての注意・助言他

私語厳禁、提出物の期限厳守、書籍や資料の通読。授業計画は、進行状況により多少前後、変更する場合あり。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

プリント資料は必要に応じて配布する。

授業計画

1. イントロダクション：健康サービスとは
2. 企画運営の立て方
3. 商品・サービス企画の方法
4. インタビュー調査の方法（探索的調査）
5. ゲスト講師
6. グループワーク（KJ法）
7. イベントマネジメント（1）
8. イベントマネジメント（2）
9. グループワーク（ブレインライティング）
10. イベントマネジメント（3）
11. 企画書の書き方
12. 企画書作成
13. 企画書作成
14. 企画書作成
15. まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：各自次回の講義内容について、インターネットや新聞等を活用しながら自宅学習を実施しておくこと（2時間）。
 復習：講義後に、本講義のまとめ部分を学生に提示するため、その部分の復習を毎日自宅で行うこと（2時間）。
 課題：授業の最後に、毎回レポート課題を提示し、授業の最後または次回の授業までに提出すること（2時間）。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

<学科共通>
 まずまず高齢化社会が進む現代社会において、子どもから高齢者までの広範囲にわたる健康分野に関する基礎知識を身につけ、健康関連産業やスポーツ関連産業で就業することができる。健康サービス企画運営論では、若者男女とわず様々な対象に応じた健康サービスの専門知識を取得する科目である。また、健康やスポーツ関連産業に対応した授業を行っていることから、DPに貢献し得る科目である。
 <スポーツマネジメントコース>
 「する」「みる」「ささえる」の視点で、スポーツをキーワードとする関連事業分野、業種において企画運営に携わることができる。健康サービス企画運営論では、「する」「みる」「ささえる」の視点を盛り込んだ企画立案を授業内容に含まれている。また、授業内で企画運営に関連した講義が展開されていることから、DPに貢献し得る科目である。
 健康課題やスポーツ産業などの多様な社会的背景と今後の課題と対応策について、分析、評価、企画を行うことができる。健康に関連する様々なサービス企画運営を想定した本授業は、健康産業やスポーツ産業への貢献を目的としている。また、分析、評価、企画を授業内で行うことから、DPに貢献し得る科目である。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

responを活用した参加型授業やQRコードを読み取り、アンケートに答えてもらいながら、学生の理解を深める授業などを展開する。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり：スポーツ関連企業やスポーツイベント、健康関連産業とのネットワークを活かし、ゲスト講師の依頼や現場実習（フィールドワーク）、担当者へのプレゼンテーション機会を創出する。

備考